



はやまエシカルアクション賛同団体  
「NPO法人Wake Up Japan」

〒240-0112 堀内318番地 Social House  
Hayama

Wake Up  
Japan

HAYAMA  
Ethical Action

## 海洋プラスチック教材作成

海洋プラスチックと私たち一人ひとりの生活がどのような関係性があるのかをクイズやロールプレイングなどを通じて理解し、一人ひとりが行えることを考える教材を作成しました。



▲ウェブサイト上でダウンロードできるようにしています。  
<https://www.wakeupjapan.org/resources>

## フェアトレード商品の販売

国際NGOオックスファムのフェアトレード商品を輸入販売を行っています。



▲写真のキャプション: フェアトレードの紅茶やチョコ、ゴマのお菓子などを輸入販売しています。  
<https://www.wakeupjapan.org/ethicalustainability>

## 農業体験イベントの開催

藤沢にある「さんかく農園」にて、農作業体験を行い、そのあとに、農と食、社会について対話をするイベントを開催しています。



▲農業体験と社会問題に関する対話を行うイベントを藤沢にある「さんかく農園」にて開催しました。

## 声を上げる

社会問題に対して声をあげる機会に参加し、社会問題を自己責任で終わらないよう連帯を示す活動をしています。



▲コロナ前には、東京・渋谷で開催されている東京レインボーパレードにメンバーと一緒に参加をしていました。

## SDGsに関する啓発

各地で行われているイベントに出展し、SDGsやシティズンシップに関する社会啓発活動を行っています。



▲大阪市で開催された高校生世代向けのイベントに出展し、SDGsやシティズンシップについての意識啓発を実施しました。

## リーダーシップ・トレーニングの開催

社会を変えたいと願う学生や若者向けにリーダーシップ開発トレーニングを実施しています。



▲2022年には、逗子フェアトレードタウンの会と協力して、フェアトレードと社会変革をテーマに学生・若者向けのトレーニングを開催しました。逗子市内でフェアトレードを扱う店舗に伺い、フィールドワークも実施しました。

## フィールドワークの実施

エシカルや人権などの社会問題により多くの人々が参加すること、そして、社会を効果的に変えていく方法を学ぶために国内外でのフィールドワークを実施しています。



▲コロナ前は、アメリカをはじめとした海外、沖縄や北九州などの国内をめぐり、社会変革の事例を学ぶフィールドワークを実施していました。

## 社会問題に関する啓発

「移民・難民」「貧困と格差」「先住民の権利」「ジェンダー」「気候変動」などの社会問題についての講演や啓発活動を各地で行っています。



▲岡山県瀬戸内市でYouth UNHCRによって開催された移民や難民との共生についてのアイデアコンペでは審査員としてWake Up Japan代表理事の鈴木が登壇しました。

## エシカル交流会

国内外でエシカルやフェアトレードなどにかかわる人々と交流し、成功事例を学んでいます。また、地域や国が違って同じ思いを持つ人々との交流によって、メンバーの意識はより強くなります。



▲オーストラリア、メルボルンでフェアトレードに関する啓発活動をする若者たちとのオンライン交流会の様子。

## インターンシップの受け入れ

社会問題の解決を目指す若者や学生の受け入れを行っています。



▲オーストラリアのDeakin大学の学生インターンシップを受け入れ、「日本社会での利他的習慣の定着化」のための調査活動を行いました。写真はコロナ前に葉山の事務所に学生たちが訪問した際のもの。